

ご列席の皆様,

本日は、私ども日本の関係者にとって、大変喜ばしい機会にご一緒していただいたことに、心からお礼を申し上げます。2011年3月11日に日本を襲った東日本大震災の後日本産食品に対して課された輸入規制を英国政府が撤廃したことを歓迎し、規制撤廃のために理解と協力をして下さった方々に感謝を申し上げまするために、福島県及び本宮市の方々と共に、本日の機会を設けました。

東日本大震災は、歴史的に地震が多い国として知られる日本にとっても、未曾有とも言える極めて大きく深刻な惨禍をもたらしました。約2万人の方が死亡され、地震の直後には約47万人の方々が避難することとなりました。特に、太平洋に面した地域では、地震のみならず、地震に起因して発生した高さ9mを超えるるとても大きく大きな津波により、多くの方が命を落とし、家屋をはじめとする大きな被害が生じました。被災地の中でも福島県においては、このような予想を遙かに超える津波によって、福島第一原子力発電所の設備の一部が破損・浸水しました。

震災発生直後から日本では、国を挙げて、復興に取り組んで来ました。11年を経て、被災地の復興は着実に進んでおり、多くの地域において力強い経済・社会・文化の息吹が見られます。未だに約4万人の避難者がいらっしゃいますが、避難所から仮設住宅、公営住宅への入居を経て、恒久住宅への移転が進んでいます。昨年末には、太平洋沿岸を南北に貫く基幹道路も全線開通しました。こうした復興の進展は、日本政府及び日本国民からの支援はもちろんですが、英国を含む多くの国々からの暖かい支援によって可能となりました。この機会に、支援していただいた英国の方々に感謝を申し上げます。

日本政府は、東日本大震災後の日本産食品に対する輸入規制の早期撤廃を働きかけて来ました。これは、輸入規制の撤廃が震災からの復興を象徴すると考えられるからです。もちろん撤廃は、科学的根拠に基づいて行われねばなりません。日本政府は、関係国政府に対して、客観的かつ科学的なデータを継続的に提供し、輸入規制を維持する必要性がないことを説明して来ました。こうしたやり取りを通じて、英国政府が6月29日に輸入規制の全てを撤廃して下さったことを高く評価し、歓迎いたします。実は、EUや中国など一部の地域や国では、依然として規制が残っています。英国という世界をリードする高い科学技術と食品安全の水準を誇る国の決定は、規制を維持している国々に対してインパクトを与えることでしょう。

本日お集まりいただいたゲストの中に、規制撤廃の過程で理解や協力をいただいた方々が大勢いらっしゃいます。それぞれの担当官庁や担当機関で関与されていた方々、政策決定に影響力をお持ちの方々、議会での承認のプロセスに影響力をお持ちの方々などのご助力があったからこそ、今回の結果が得られたと考えています。マット・ハンコック元保健大臣からは、様々なご助言をいただきました。英日議連の皆様には、議会プロセスでの力強い味方になって下さいました。そして、もう一人忘れてはならない方がボリス・ジョンソン前首相です。彼からは、岸田総理との首脳会談の中で、福島県産の桃のジュースの美味しさに言及されたり、本宮市で作られたかりんとうを食されるなどしつつ、規制の撤廃に向けた力強い発言をいただきました。本日のこの機会に、これらの方々に対して、心からの感謝を申し上げます。

申し上げた通り、食品輸入規制の撤廃は私達日本人にとって震災からの復興という象徴的な重要性を持つものです。同時に、素晴らしい副産物をもたらすものだと思っています。それは、規制の撤廃により、ここ英国ではより多くの日本産の食品が手に入ることになるからです。特に、福島県は、素晴らしい食品やお酒などの産地としてかねてより有名な地域です。本日は、副知事をはじめとする福島県の関係者が、様々な特産品を持って集まってくれました。本日は、皆様とご一緒に、安全で美味しい福島県産の食べ物やお酒が楽しめることを心より嬉しく思います。これこそ、輸入規制撤廃の素晴らしい副産物だと確信しています。

ご静聴、有り難うございました。